

高津校舎開発計画～より良い高津にするためには～

社会班:青木 聡吾、小田垣 凜音、巽 亮太、川瀬 巧弥

要約

高津高校の生徒として日常を過ごす中、校舎の構造で不便だと感じるが多々あった。そこで我々は、現状を調査し、より過ごしやすい高津高校の施設設備を考察した。調査の結果、校舎のバリアフリーは最低限整ってはいたが、エレベーターの未設置などの課題があること、トイレや移動教室の不便さを訴える人が多いことなどが分かった。この研究から、学校側は生徒が最も必要としているものを理解することや生徒の声が届く風通しの良い環境を整えること、生徒側は施設に対する自身の意見をもっと積極的かつ建設的に主張することが必要であると感じた。

1. はじめに

2020年東京パラリンピックが開催されたこともあり、誰もが過ごしやすい社会がより注目されるようになった。また、我々は高津高校で約1年半という時間を過ごしてきたが、日頃の生活で本校の施設や建物の構造などに関して不便に思うことや、怪我を負っている生徒が移動しづらそうにしている姿を何度か見ることがあった。そこで、本校は施設や建物の構造などに対して不便なところが多くあるのではないかと疑問をもった。本研究では、現役及び将来高津生の暮らしがより便利になるような様々な解決策を、客観的なデータやアンケートを基に考える。

2. 調査方法

《Ⅰの調査》

自らの足で不便な校内の施設や構造を直接調査した。校舎内、グラウンド等を対象とした。

《Ⅱの調査》

高津施設に関するアンケートを独自に作成して実施し、高津生の意見を分析した。

アンケートでは、以下の3点を高津生1,2年生103名を対象に行った。

- ①高津高校内の施設は使いやすいか
- ②便利だと思うところはありますか
- ③不便なところはどこですか

3. 結果

《Ⅰの結果》

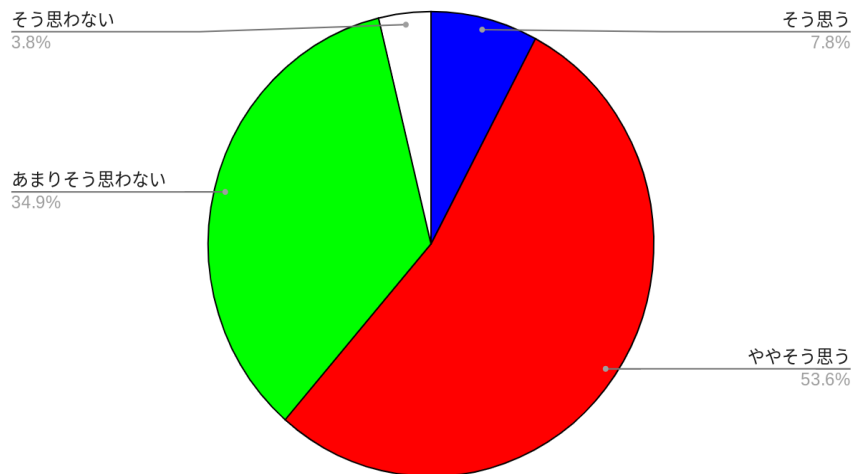
校舎内は所々の段差が多かった。廊下は時間帯によっては混雑が見受けられ、通行が難しいこともあった。また、雨天時には滑りやすかった。降雨後、裏門付近に乾きにくい水たまりがあった。片側にのみ手すりがついている階段や、手すりが途中で途切れている階段が多くあった。体育館で雨漏りしている箇所があった。運動場は大きい石が多く、地面がデコボコしているところがあった。

《Ⅱの結果》

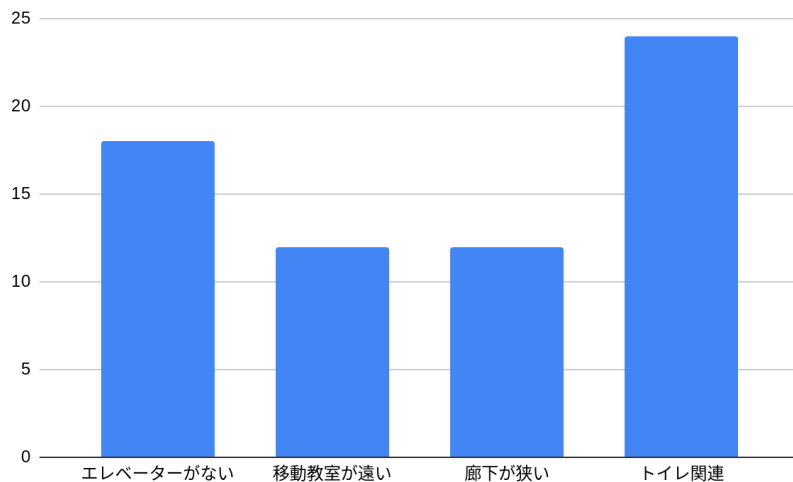
下の(図1)のグラフは「高津高校の施設は使いやすいですか」という質問の結果である。100件近くの回答が集まり、否定的な意見を持った人は4割近くいるという結果が得られた。

(図2)のグラフは「不便なところはどこですか」という質問の結果である。トイレ関連についての意見が最も多く、次にエレベーターの未完備についての意見であった。

高津高校内の施設は使いやすいですか。



(図1)



(図2)

4. 考察

私達が当初抱いていたイメージよりも高津高校は身体が不自由な人たちのための環境が整備されていることがわかった。ただ、体育館や記念館など、校外からの来客が予想される場所にエレベーターや点字ブロックが整備されていない点が見受けられた。また、トイレに関する不満が多かったが、男子トイレや移動教室先のトイレなどは未改修であり、いち早い対応が望まれる。他に、本校は教室移動を要する授業が多いうえ、廊下にロッカーがある関係で時間によってはものを取りに行く生徒が多いため、廊下が混雑することが日常になっている。そのことが廊下がより狭く感じる一因になっていると考えられる。

5. 結論

将来の高津生に向けて、現在ある不満の解決策として、生徒の不満が多いトイレやエレベーターの改修・設置などのいち早い対応が望まれる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- ・令和4年度版大阪府公立高等学校等ガイド R4_kouritukougaido.pdf
- ・令和2年度学校教育自己診断(生徒用)
<https://kozu-osaka.jp/cms/wp-content/uploads/2021/08/S-2021HP2.pdf>